

○6番（櫻井 茂君） おはようございます。今日から一般質問ということでよろしくお願いをいたします。一問一答方式で質問させていただきます。今日の天気のように爽やかな気分で質問を終えたいと思っておりますので、答弁のほうもよろしくお願いをいたします。

それでは、複合文化施設について質問をさせていただきます。

市民会館及び図書館の機能を中心とした複合文化施設を令和7年度竣工予定として計画が進んでおりますが、設置場所、施設の規模等が未定の中で事前調査委託は遅れ、基本計画案も示されておられません。どのように事業を進めるのかお尋ねをしてみたいと思います。

最初に複合化する施設についてであります。

複合を予定する施設につきましては、複合文化施設への導入機能として市民会館、中央図書館、児童館、杉並コミュニティセンター、勤労青少年ホーム、まちかど情報センター、コワーキングスペース、体感型観光PR施設、その他として、民間事業者提案等、合わせて9つの施設機能を予定していることが令和3年9月14日の産業建設委員会において説明されております。

そこで、お尋ねいたしますけれども、複合を予定する施設として候補に上がった施設、機能について、どのような審査検討の末、どの施設が残り、あるいは対象外とされたのか。決定過程を伺います。また、その理由も伺いたしたいと思います。

○議長（菱沼和幸君） 市長直轄組織理事・浅田君。

○市長直轄組織理事兼駅周辺にぎわい創生担当（浅田禎智君） ご答弁申し上げます。まず、複合文化施設の基本コンセプトと必要となる機能につきましては、令和4年4月25日の産業建設委員会においてご報告させていただいております。複合文化施設が持つ機能といたしまして、基本コンセプトで感動を共につくる力に変えていく学びと交流の文化拠点を掲げまして、市民活動のステップアップに必要な機能を備えることとしてございます。

具体的には、文化ホール機能と図書館機能を核としながら、子どもの遊び場、親子の触れ合いスペース、会議や研修、サークル活動などが行える市民活動のスペース、市民ギャラリー展示スペース、大型スクリーン等によるデジタル情報発信スペースなどに加え、共有スペースを活用してフリー活動スペース、ふるさと情報コーナーなどの機能を備える計画としてございます。

また、市の行財政改革の一端として、公共施設の在り方において選択と集中についても重要な要素であることから、令和2年度より複合文化施設プロジェクトチームにおいて複合文化を検討する施設についても協議を行ってまいりました。市民会館の代替施設としての市民ホール、もともと複合文化を目指していた図書館を核としまして、複合化を希望、期待する施設をピックアップし、その施設が担っている機能の導入について検討を重ねてございます。

その中で候補に上がった施設につきましては、児童館、杉並コミュニティセンター、勤労青少年ホーム、石岡保健センター、東地区公民館、旭台会館、まちかど情報センター、文化財等の展示スペース、ふるさと歴史館の9施設でございます。

この中で児童館につきましては、当初市民の利便性向上から複合化を検討してまいりましたが、現在担当課において利用者を含めた様々な方のご意見を聞きながら、今後の方向性について検討を行っているところでございます。

石岡保健センターにつきましては、独自の整備となったため対象から外してございます。

東地区公民館、旭台会館、まちかど情報センターにつきましては、地域の特色が強いこと、位置の関係から対象から外してございます。

文化財等のスペース、ふるさと歴史館につきましては、資料の保管機能も重要となることから、建築面積の関係により対象から外してございます。

以上でございます。

○議長（菱沼和幸君） 6番・櫻井 茂君。

〔6番・櫻井 茂君登壇〕

○6番（櫻井 茂君） 大まかなところは分かりました。石岡保健センターの施設整備から外れたというその流れですね。具体的には別な機会でもたまたまお尋ねしてまいりたいと思いますけれども、いろいろな検討過程があってそのような形になったんだろということとは理解をいたします。

再質問になりますけれども、複合化を検討する施設として今説明いただいたわけですが、どうしても私なりに理解できない施設がございます。それは何かといいますと、複合文化施設が鹿島鉄道跡地もしくはイベント広場、候補地としてはこの2か所が上げられておりますので、このどちらかに建設予定で検討が進んでいく中で、なぜ杉並コミュニティセンターという名前、機能が予定されているのか。そして、その位置づけはどうなるのかをお伺いします。

同様に、勤労青少年ホームには体育館がありますけれども、例えば面積の狭い鹿島鉄道跡地に体育館を建設するのか。こちらも疑問であります。また、まちかど情報センターについても本来の設置目的から見て現在地が最もいいと思われまので、本来対象外とすべきではないんだろかと思っておりますので、これらについてお尋ねをしたいと思います。

○議長（菱沼和幸君） 市長直轄組織理事・浅田君。

○市長直轄組織理事兼駅周辺にぎわい創生担当（浅田禎智君） ご答弁申し上げます。杉並コミュニティセンター及び勤労青少年ホームにおいて担っていた会議や研修、サークル活動のための機能は市民活動スペースとして会議室や和室、調理室を備えることとしてございます。この市民活動スペースは複合文化施設のコンセプト達成のための機能として整備されるもので、杉並コミュニティセンター、勤労青少年ホームが持つ会議室と同じ使い方ができるという意味で、施設の名称については継承する予定はございません。

勤労青少年ホームの体育館につきましては、当初より導入の対象外として協議を進めているところでございます。

また、まちかど情報センターにつきましては、その事業の在り方を含めて検討対象候補としておりましたが、現在の場所にあることでその目的を達成する施設であることから、検討対象から外し、複合文化施設としては情報発信の役割を担うふるさと情報コーナーを新たに整備する計画としてございます。

以上でございます。

○議長（菱沼和幸君） 6番・櫻井 茂君。

〔6番・櫻井 茂君登壇〕

○6番（櫻井 茂君） そうであるならば、本来個別の名称で委員会で説明すべきではなかったんじゃないかなと私は感じております。以前同じ内容の質問、以前というか、この通告の前にこの内容と同じものを担当者の方に質問をしました。しかし、ただいまいただいた回答と若干内容が異なっておりまして、果たして課内で統一的な見解を持って事業を進めているのか、ちょっと疑問な点がございます。

それでは、施設位置の決定についてお尋ねをしてまいりたいと思います。こちらはどのような決定過程を予定しているのかお尋ねいたします。

○議長（菱沼和幸君） 市長直轄組織理事・浅田君。

○市長直轄組織理事兼駅周辺にぎわい創生担当（浅田禎智君） ご答弁申し上げます。建設候補地につきましては、イベント広場と駅東地区の2か所を候補としております。選定の最終段階として、これまでに比較検討してきた内容に加え、5月に実施した市民アンケートで市民の皆様にご理解を深めていただくとともに、この集計結果を参考に最終案をまとめまして庁議において検討結果を報告し、承認の後、できるだけ早い時期に議会へもお示しさせていただき、市民説明会、パブリックコメントを経まして、9月を目途に建設地を含めた基本計画を確定させていきたいと考えてございます。

以上でございます。

○議長（菱沼和幸君） 6番・櫻井 茂君。

〔6番・櫻井 茂君登壇〕

○6番（櫻井 茂君） 9月を目途にという答弁をいただきました。これまで委員会等に報告された内容では、サウンディング調査は民間事業者の希望が多かった駅東地区のみに調査をかける旨の説明がされております。そして、鹿島鉄道跡地では狭いとして、突然黒字経営の市営駐車場も候補地に含めるといふことにするなど、どう考えてもイベント広場の線は薄いのかなと私は思ってしまう。

今さらのアンケートを最近またやられているようですが、事業の進め方が後出しじゃんけんのようにしっくりきません。あたかも公平に検討しているように説明していますが、いたずらに経費と時間を浪費して既成事実を積み重ねているように見えてしまうところでもあります。既に内々では建設位置を決定して既成事実を積み上げているように見えてしまいますけれども、いかがでしょうか。再度答弁をいただきたいと思っております。

○議長（菱沼和幸君） 市長直轄組織理事・浅田君。

○市長直轄組織理事兼駅周辺にぎわい創生担当（浅田禎智君） ご答弁申し上げます。櫻井議員おっしゃるとおり後出しになっている部分もございまして、これは大変申

し訳ないと思っております。ただ、現在は候補地を2か所で比較検討をし、どちらがいかということによって現在調整を進めております。内々に決まっているということではなく、アンケートも取りながらいろいろな意見を聞いて、最終的にどちらがいかというのを判断してまいりたいというふうに考えてございます。

以上でございます。

○議長（菱沼和幸君） 6番・櫻井 茂君。

〔6番・櫻井 茂君登壇〕

○6番（櫻井 茂君） 次の質問に入ります。2つ目、複合文化施設の規模と形状についてお伺いをしてまいりたいと思います。

複合化を予定している施設側、今回の複合文化施設でいけば市民会館の機能、あるいは図書館の機能という中核の施設をメインとして、そのほかの施設を入れていくというような答弁をいただいておりますけれども、この複合化を予定している施設側はどのような要望を提出しているのかについてお尋ねをしたいと思います。

要望している施設床面積、そして現在の規模との差、現施設と要望している施設の面積の差を説明いただければと思います。この面積要望はいつ頃、どのような形で提出され、確認したのか。聞き取りなのか、文書提出なのかについても説明をいただきたいと思います。

そして、市民会館については面積でお尋ねしてもちょっと分かりづらいということもありますので、客席数でご答弁をいただきたいと思います。

○議長（菱沼和幸君） 市長直轄組織理事・浅田君。

○市長直轄組織理事兼駅周辺にぎわい創生担当（浅田禎智君） ご答弁申し上げます。各施設が要望している施設面積につきましては、令和2年5月の複合文化施設プロジェクトチームで各所管より報告を受け、個別協議により聞き取りを行って進めてございます。

床面積につきましては、令和2年12月11日の教育福祉委員会において、現施設の面積から想定した床面積として1万2,002平米と報告がされてございます。現在取り入れる機能について細部の調整を行っておりますので、今後面積が変動することについてはご理解いただきたいと存じます。

参考といたしまして、旧市民会館、こども図書館を含む中央図書館、杉並コミュニティセンター、勤労青少年ホームの4施設の合計は8,404平米となりまして、1万2,002平米から単純な差引きでございますが、3,598平米の増となっております。また、市民ホールにつきましては、現在考えている案といたしまして大ホール1,050席、多目的ホール100席としてございます。

以上でございます。

○議長（菱沼和幸君） 6番・櫻井 茂君。

〔6番・櫻井 茂君登壇〕

○6番（櫻井 茂君） ありがとうございます。現在の施設規模よりも大きくなるであろうというか、大きい面積での要望が出ているということで理解をいたしました。市民会館についても1,000席ということなので、皆さんご存じのとおり市民会館については席の間隔が非常に狭くて、体の大きい方は苦勞して座られていたというよう

なイメージもあります。十分なスペースを取りつつ1,000席確保できればありがたいなと思いますけれども、今後の協議に委ねたいと思います。

次に、要望された床面積を駅東地区に建設した場合、あるいはイベント広場に建設した場合に複合文化施設はどのような形状、階数になるか。何階建てになると想定しているのか。提案された要望をどのように整理、検討して決定していくのかについてもお尋ねをしたいと思います。

○議長（菱沼和幸君） 市長直轄組織理事・浅田君。

○市長直轄組織理事兼駅周辺にぎわい創生担当（浅田禎智君） ご答弁申し上げます。2つの候補地それぞれに建設した場合の想定階数と形状につきましては、日影影響調査等が実施していないことや建築面積が精査中である中ではございますが、駅東地区の場合、鹿島鉄道跡地と駅東駐車場を利用した場合で建物本体が3階建て、駐車場は立体化を行い、3から4階建てになると想定されます。

次に、イベント広場についてでございますが、国の特別史跡に指定されている常陸国分寺の埋蔵文化財包蔵地であることから、建築そのものや建築基礎に制限がかかる場合がございます。現状2階建てが想定されているところでございます。

建物の形状につきましては、敷地の有効利用を考慮すれば箱型、敷地に余裕があればある程度デザインに凝った形状が可能となります。採用する事業手法との兼ね合いがございますが、仮に民間提案型であった場合、様々な形状が提案されると想定してございます。

以上でございます。

○議長（菱沼和幸君） 6番・櫻井 茂君。

〔6番・櫻井 茂君登壇〕

○6番（櫻井 茂君） 次に、複合文化施設の概算費用と財源をお尋ねしてまいりたいと思います。

鹿島鉄道跡地とイベント広場では面積が1対4、イベント広場のほうが4倍の大きさですね。市営駐車場の全てを入れましても駅東地区2に対してイベント広場は4ということで2倍の大きさがイベント広場はございます。一方、駅東地区のほうは長方形2分割という形になるんでしょうかね。土地の形状に制約があるというような状況であります。

当然先ほど出たように現有施設よりも大きめの面積で要望が出ているという中で、その要望面積を確保しようとするればおのずと建物の形状が違ふと。先ほどありましたように2階建て、3階建てというような説明もいただきましたけれども、そういう中で当然形状が大きく違えば建設費用も変わるものと想定すれば、建設に要する概算費用とその算出根拠についてもお尋ねをしたいと思います。

○議長（菱沼和幸君） 市長直轄組織理事・浅田君。

○市長直轄組織理事兼駅周辺にぎわい創生担当（浅田禎智君） ご答弁申し上げます。概算事業費の算出につきましては、国内同様施設の主な先行例から平均単価として平米当たり70万円を設定してございます。これに面積を掛けて算出することになります。

概算事業費の額につきましては、先ほどの1万2,002平米に平米単価70万円を掛けますと84億140万円となりますが、これに駐車場などの周辺整備に係る経費を加えますと、正確な数字ではございませんが、100億円を超えることが想定されます。

また、この単価は新型コロナウイルスやウクライナ情勢等による資材の高騰分、新たに国から求められております環境配慮型の施設整備への対応分について見込まれていませんので、今後修正を行うことについてご理解をいただきますようお願いいたします。

以上でございます。

○議長（菱沼和幸君） 6番・櫻井 茂君。

〔6番・櫻井 茂君登壇〕

○6番（櫻井 茂君） 100億円を超えるであろう概算事業費ということで説明をいただきました。駅東地区の場合とイベント広場の場合の建設費、総額の差、これはどのように見ておられるのかであります。単純に平米単価を掛けた概算経費で先ほど説明をいただきましたけれども、実際には土地の形状や建物の大きさ、これによっても若干の差は当然出ると思います。

建物の形状と土地の形状が今回違うと。地盤の状況、建設費がどの程度変わるのか。さらにはイベント広場の場合は発掘費用が含まれる可能性も高いと思いますので、この発掘費用と発掘に要する期間をどのように想定しているのかをお尋ねしたいと思います。概算費用の内容を具体的に説明いただければと思いますので、よろしくをお願いします。

○議長（菱沼和幸君） 教育部長・吉澤君。

○教育部長（吉澤房江君） イベント広場の発掘費用につきましてご答弁申し上げます。発掘に係る経費につきましては以前は平米単価約1万円と言われておりましたが、直近2件、石岡市のほうで民間事業者へ委託して実施した場合の費用につきましては人件費の高騰などにより平米単価が約1万6,000円となっております。

平成19年3月に当時作成されました複合文化施設建設の基本設計のときには1階部分の建築面積約3,600平方メートルで計画されておりました。そのうち908平方メートルについては既に本格的な発掘調査が済んでおります。設計をした場所と同じ場所で設計した場合にはその平米数が差し引かれることとなりますが、別の場所で計画される場合にはその建築面積全体の本格的な発掘調査が必要となります。

先ほどの答弁で想定床面積が1万2,002平米というお話がありましたが、仮にイベント広場を総2階建てとしますと建築面積が約6,000平方メートルとなります。そちらに1万6,000円という平米単価を掛けますと9,600万円ほどの発掘費用がかかると想定されます。

期間につきましては、こちら経験則ということになってしまっていて大変申し訳ないんですが、発掘作業のみで約1年間と想定されます。これに加えて発注の準備、報告書の作成、それから国、県との協議期間などを考慮しますと約1年半程度の期間は必要になるものと考えてございます。

○議長（菱沼和幸君） 市長直轄組織理事・浅田君。

○市長直轄組織理事兼駅周辺にぎわい創生担当（浅田禎智君） ご答弁申し上げます。先ほどのイベント広場と駅東地区での差額、これは何が考えられるかということでございますが、まずイベント広場における周辺整備として想定されるものとしまして駐車場などの外溝工事、調整池整備及び流末排水整備、周辺道路の再整備、埋蔵文化財の発掘調査、敷地の盛土などの文化財保護対策が考えられます。

駅東地区における周辺整備として想定されるものとしましては、立体駐車場の整備、外溝工事、駅からの連絡通路整備、敷地の液状化対策、周辺道路の再整備が考えられます。

以上でございます。

○議長（菱沼和幸君） 6番・櫻井 茂君。

〔6番・櫻井 茂君登壇〕

○6番（櫻井 茂君） いずれにしても、附帯工事がたくさん発生するんだろうと思います。ただいま教育委員会のほうからは発掘に関する答弁をいただきまして、発掘費用に約1億円、発掘期間には1年半を要すると答弁がありました。これについては所管委員会に提出された資料を見ますと、基本設計と実施設計を当初予定では令和4年度、実際は事業が遅れていますのでできないでしょうけど、今年度に基本設計と実施設計を12か月で完成させるというスケジュールを組んでいるんですね。発掘調査期間は全く入れていないんです。

そもそも市役所新庁舎、我々がいるこの庁舎の総事業費は約70億円です。先ほど概算費用を答弁いただきましたけど、100億を超えるかもしれないという話ですから、この市役所の整備事業よりも大きい事業を今からやろうとしておるわけですね。そこでは基本設計及び実施設計の契約期間は倍の24か月かかっているんですよ。日本有数の建築設計事務所が担当して2年かかっています。市役所新庁舎よりも予算規模が大きくなるにもかかわらず、半分の12か月で基本設計と実施設計を完了させると説明しておりまして、事実を積み上げていきますと事業計画や説明、その手法、いずれも果たして適切なのかという疑問は当然湧いてくるわけでありまして。

先ほど申し上げたように、当初計画では発掘期間は全く設けていないんですね。でも、もし仮にイベント広場であれば1年半程度発掘をしなければなりませんよという答弁がございました。もちろん、駅東地区でも開発をする場合には一定の発掘は必要でしょうけれども、元は川だったり沼地だったりした場所ですから期間は短くなるんだろうとは思いますがけれども。

そこで市長にお尋ねしますがけれども、複合文化施設を建設する位置について、先ほど決定していないと部長のほうで答弁しましたけれども、であるならば駅東地区に建設した場合とイベント広場に建設した場合の2つの案を議会に示すべきじゃないかと私は思っています。そうしていただかないとメリット、デメリット、事業の波及効果を議論できないんですね。議会としては、今回100億円を超えるという石岡市政以来最大規模の事業になると思うんです。市長のお考えをお尋ねしたいと思っております。

○議長（菱沼和幸君） 市長・谷島君。

〔市長・谷島洋司君登壇〕

○市長（谷島洋司君） お答えいたします。この複合文化施設の整備につきましては、今、市民会館が閉鎖しておる、そして図書館が老朽化していると、そういう状況の中で本当に喫緊の大きな課題であると思っております。石岡市にとっても議員おっしゃるとおり、この先10年、20年、しっかり石岡市民が文化を享受し、そして子どもたちの未来をつくっていくために必要な施設であると思っておりますので、私としましてはしっかりと調査検討をした上で速やかに進めてまいりたいと思っております。

今、答弁の中でもありましたけれども、当初公有地の中から選ぶということで、イベント広場と駅東地区という石岡市が保有している施設ということで2か所検討してまいりました。イベント広場につきましては、今、答弁にもありましたとおり国の特別史跡国分寺の埋蔵予定地というか、埋蔵が想定される地区ということで試掘を行っております。その試掘を行った際にもう明らかに特別史跡の国分寺の外堀であろうというような場所も出ております。そういったこと、あるいは今イベント広場でお祭りの駐車場、あるいは商工祭や民間のイベントが行われているというイベント広場が持っている機能、そういったものもやはり大切にしなくちゃいけないなと思っております。

そういった中で、民間企業へのプレサウンディングでは駅の有効活用というお話がございました。駅のにぎわいを創出するという意味で、今、石岡駅に複合文化施設があった場合と複合文化施設をイベント広場につくって駅に複合文化施設がない場合と考えると、やはり駅周辺のにぎわいをつくっていくためにはここで何かしらの求心力を高める施設が必要なのではないかなと私自身は考えております。

様々なご意見あると思えます。今アンケート調査もまとまっていると伺っております。そういったことを踏まえながら、しっかりと皆さんと情報を共有しながら進めてまいりたいと思っております。

○議長（菱沼和幸君） 6番・櫻井 茂君。

〔6番・櫻井 茂君登壇〕

○6番（櫻井 茂君） 私がお尋ねしたのは、要するに議会で議論するためのたたき台が欲しいわけですね。たたき台が出ていないんですよ。施設に何が入るのかも分かりませんし、大きさも分からない、場所も分からない。そうじゃなくて、分からないのであれば出していただきたい。

イベント広場だったらこういう構成でこういう規模だよと。駅東地区であれば面積が狭いのでこういう建物でこういうものですよと。予算もこういう形になるでしょうみたいなものを出していただいて、そこで初めてコストパフォーマンスであったり、本来の目的に合っているのかという議論ができるんですけど、今、市長がおっしゃったのは駅東地区がいいというようなことをおっしゃっちゃったので、場所が決まっているという話じゃないですか。さっきは公平にやると言っておいてそれはちょっとおかしいですよ。

特にそこを聞きたいわけじゃないんですよ。私は。案を2つ出してほしいということなんです。イベント広場の案と駅東地区。多分市長が今おっしゃったように、駅

東地区で頭の中は、分かりませんよ。51対49なのか知りませんが、パーセンテージでいくと。それがやっぱり職員に伝わっているんですね。微妙に。

先ほどの部長の答弁ですと、9月に庁議の中で承認を得て提案したいというような話もありましたね。その場所については。当然そのときには基本計画案が出てくるんでしょうから、建物の構成も出てくるんでしょうし、規模も出てくるんだと思いますけど、それは多分1つの案しか出さない予定なんじゃないかと私は想定しているんですね。でも、それじゃ議論できないんですよ。我々議会は。

場所が決まっているか、建物の構成が決まっているんだっつらば、片一方だけ決める話ですから、通常いろんな公共施設はそういう形で進んでいるんですね。この場所に複合文化施設をつくりたいというのであれば場所は決まっていますから、複合文化施設の構成を議論するという話なんです。

もしくは、複合文化施設をつくるに当たって、もうほぼほぼ構成が決まっているので、市長がおっしゃるとおり公共用地の中でどこかに建てたいんだと。であればその目的にかなった最も効果的な場所はどこなんだと場所を決める議論だけで済むんですけど、石岡市の場合何も決まっていないので、今それを決めるための過程にある中で何も議会に示されていないくて我々はどう議論したらいいのか。

ほぼほぼみんな固まっちゃって、令和7年度竣工予定で補助金の申請ももう間に合わないからこれでやりたいと言われてもそれは納得できないですよ。その手法がおかしいんじゃないかと思うんです。手続だけはちゃんと取っていただいて、我々議会に議論する機会だけは与えてほしいと思うんです。これ以上市長にはお尋ねはしませんけれども、その整理だけはお願いしたいと思います。

次に、建設費の概算は100億円を超えると先ほど答弁をいただきましたので、この財源内訳をお尋ねします。また、施設竣工後は毎年管理運営費が発生するということになります。今回PFI、あるいはPPPということで想定して調査を行っているようですから、これらを想定した財源内訳がお分かりでしたらお尋ねをしたいと思えます。

○議長（菱沼和幸君） 市長直轄組織理事・浅田君。

○市長直轄組織理事兼駅周辺にぎわい創生担当（浅田禎智君） ご答弁申し上げます。現在活用を予定している財源といたしましては、市民ホール、図書館部分のみが対象となります。国の補助である都市構造集中再編支援事業費補助金と補助裏の起債措置として公共事業等債を活用することを予定してございます。その残りにつきましては一般財源等を想定してございます。これらの補助額につきましては、市民ホール、図書館の施設規模により変動がございましてことについてはご了承をお願いいたします。

このほか、まだ活用が決定には至っておりませんが、図書館の複合文化施設整備に係る合併特例債の活用ができれば、一般財源の持ち出しが削減できると考えてございます。また、管理運営費につきましては一般財源を想定してございますが、今後活用できる新たな制度や手法がありましたら積極的に導入し、運営コストの削減に充ててまいりたいと考えてございます。

以上でございます。

○議長（菱沼和幸君） 6番・櫻井 茂君。

〔6番・櫻井 茂君登壇〕

○6番（櫻井 茂君） 実際の民間の活力を生かしてどのように財源内訳の中に民間からの資金を入れ込むかというところまでは至っていないんですかね。答弁がありませんでしたので、そちらは結構です。

次に、4番目ですね。複合文化施設担当組織についてお尋ねをしてみたいと思います。

駅周辺にぎわい創生課は複合文化施設以外にも大きな事業を担当されておられますね。複合文化施設建設に向けて組織内での事務分担、業務の進め方をまず最初にお尋ねしたいと思います。

○議長（菱沼和幸君） 市長直轄組織理事・浅田君。

○市長直轄組織理事兼駅周辺にぎわい創生担当（浅田禎智君） ご答弁申し上げます。駅周辺にぎわい創生課は参事兼課長、課長補佐、係長、係員3名の6名体制で業務を行っております。このうち専属ではございませんが、複合文化施設担当として課長補佐、係長、係員1名が中心となって業務を進めており、参事兼課長は駅周辺整備事業やその他の業務を含めて課のマネジメントを行っている状況でございます。

以上でございます。

○議長（菱沼和幸君） 6番・櫻井 茂君。

〔6番・櫻井 茂君登壇〕

○6番（櫻井 茂君） 複合文化施設以外の事業でも大きな事業を抱えて、その事業の中には議会から見直しを求められている事業もありますね。幾つかの取組でスケジュールを守れていないことも分かっておりまして、今回繰越しも出していると思います。職員の事務処理分担や事業の進め方に問題はないのでしょうか。既に職員の事務処理能力を超えて業務過多になっていると思われまじけれども、担当部長にお尋ねするのも酷なんですけど、どのような所感をお持ちなのかをお尋ねしたいと思います。

○議長（菱沼和幸君） 市長直轄組織理事・浅田君。

○市長直轄組織理事兼駅周辺にぎわい創生担当（浅田禎智君） ご答弁申し上げます。工事関連の繰越しにつきましてはそれぞれの事業規模が大きいため、適正な施工期間を確保するとなると年度をまたぐことがあります。また、新型コロナの影響による資材納入の遅延等が影響していることも原因の1つと考えられます。

業務量につきましては課全体でマネジメントを行いながら、必要に応じて業務を振り分けるなどの調整を図っているところでございます。

以上でございます。

○議長（菱沼和幸君） 6番・櫻井 茂君。

〔6番・櫻井 茂君登壇〕

○6番（櫻井 茂君） 答弁いただきましたけれども、素朴に令和3年度に完了していない基本計画策定とサウンディング調査、これは工事ではないですよ。

それと、必要に応じて業務量の調整をするということで答弁いただきましたけれども、既にオーバーフロー状態であるならば多分調整はできないです。もう越水状態で

すね。川から水がこぼれちゃっておる状態であるならばですね。駅周辺にぎわい創生担当として、多分本音は言えないのかなという気はしております。

予算規模から単純に見た複合文化施設、これは先ほど申し上げたように石岡市始まって以来の大規模な公共施設です。何度も申し上げますけれども、100億円という見込みを執行部は持っているわけでありますから、今後50年間、あるいはそれ以上かもしれません。石岡市のシンボルになる施設とも言えるわけであります。その施設の機能と規模をこれからいよいよ具体化していく際には複数の部と詳細な詰め協議を行う必要性が当然出てくるわけであります。答弁されたように課長補佐が調整するレベルなんではないか。

市役所新庁舎の際には次長、あるいは理事が担当として位置づけられていました。決めるべきことを現在ほとんど決めていない段階で、既に事業進捗に大きな遅れも出ているのは事実であります。人事権は市長の専権事項でありますので、市長にお尋ねいたしますけれども、事業推進に向けまして大至急組織体制を強化しないと禍根を残すことになりかねませんので、市長のお考えをお尋ねしたいと思います。

○議長（菱沼和幸君） 市長・谷島君。

〔市長・谷島洋司君登壇〕

○市長（谷島洋司君） 組織体制の強化についてご答弁申し上げます。複合文化施設の整備につきましては、市民にとって親しみやすく、そして利用しやすい場所として、あるいは多様な方々が交流できる文化交流の中心拠点を目指して立ち上げた最重要プロジェクトであると認識しております。

このプロジェクトを成功させるためには、議員ご提案の組織体制の強化は大変重要な課題であると考えております。市民の願いでもあるこの複合文化施設がすばらしいものとなるよう、駅周辺にぎわい創生課が取り組んでおります業務を精査しまして組織、人材の強化を進めてまいります。

○議長（菱沼和幸君） 6番・櫻井 茂君。

〔6番・櫻井 茂君登壇〕

○6番（櫻井 茂君） 私が本日質問させていただいている内容は、複合文化施設の基本的なことだけなんですね。難しいところは質問していないはずで。計画当初の段階で本来決めておくべきこと、見込んでおくべき内容をお尋ねしていると思っております。私自身は。にもかかわらず、担当の業務精査をこれから行うという答弁をいただきましたけれども、非常に理解に苦しむところであります。市長直轄組織として駅周辺にぎわい創生課を立ち上げて1年以上が既に経過しておりまして、その業務を今から精査する。ちょっと納得がいかないですね。

予算特別委員会で同僚議員の質問で明らかになりましたけれども、議会への重要な説明を1年以上怠っていたというような事実も分かっております。先ほど伺いました発掘期間は全く当初予定には考慮していない。令和7年度竣工にもかかわらず計画していると。

ちなみにこれは質問にはならないでしょうけど、先ほど申し上げたように基本設計と実施設計を今年度1年間、12か月で終わりにしますという当初計画があります。これは先ほど言ったようにこの本庁舎の場合は24か月かかっているの、倍速で設

計をしてくれる業者さん、これは当てがあるんですかね。私は日本有数の設計事務所さんがやってくれた24か月の仕事を倍の2分の1で終わらせるというものすごい仕事というか、手早さがちょっと理解できません。

指摘させていただいたように、既に事業計画自体が適切とはもう言えないようなことが明らかになってきている中で、早急に組織の見直しをお願いせざるを得ません。もしかするともう既に手後れになっているのかもしれないんですけども、再度お伺いしますけれども、いつ頃どのような形で担当組織の強化を行う考えなのか。これは本当にやっていただかないと多分厳しいと思います。

市長直轄組織で複合文化施設以外の仕事もやりながら、そちらの仕事もうまくいっていないと。そちらで手を煩わされて複合文化施設はいいものができなかったと後から評価されるようではちょっと悲しいですし、自分たちの子どもや孫に言い訳が利かないですよ。我々議会議員は。だから、そういうことも含めて市長のお考えを再度お尋ねしたいと思います。

○議長（菱沼和幸君） 市長・谷島君。

〔市長・谷島洋司君登壇〕

○市長（谷島洋司君） ご答弁申し上げます。昨年駅周辺にぎわい創生課を市長直轄組織としてまず新設させていただきました。その中で当初駅周辺のにぎわいを創生するというハード、ソフトの面で駅周辺の整備と、そしてソフトの部分でいしおか市場なども駅周辺にぎわい創生課で行ってまいりました。

しかし、議員ご指摘のとおり、業務の煩雑さ、繁忙さということを鑑みまして、まずは駅周辺にぎわいのソフトの部分につきましては早速商工観光課のほうにその役割を移してまいりたいと。その上で今ある駅周辺にぎわい創生課に並んでもっと力を入れるような複合文化施設の建築に対する組織をつくってまいりたいと。早急に取り組んでまいりたいと思います。

○議長（菱沼和幸君） 6番・櫻井 茂君。

〔6番・櫻井 茂君登壇〕

○6番（櫻井 茂君） 可能であるならば、要するに複合文化施設だけを担当する理事か参事を入れていただいて、何名にするのかはちょっと分かりませんが、なるべく早く、来年の4月なんていうことにならないように、できましたら議会終了後速やかにそういう動きが見えればありがたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。これは私の希望です。

次の質問に入らせていただきます。婚活支援対策についてであります。

2021年生まれの赤ちゃんの数は統計開始以来最少である81万人余りということで、厚生労働省の人口動態統計で明らかになりました。この50年間の統計では、1組の夫婦から生まれる子どもの数は2名前後で推移しておりますけれども、合計特殊出生率は1972年の2.1から2021年度には1.30に低下をしております。

石岡市も同様に、人口減少と少子化が進んでいる中で統計データをどのように読み解き、少子化対策を進めていかれるのかについてお尋ねをしてまいりたいと思います。最初にこれまでの少子化対策についてであります。国の取組状況について、その概要をお尋ねしたいと思います。

○議長（菱沼和幸君） 市長公室長・門脇君。

○市長公室長（門脇 孝君） ご答弁申し上げます。国はこれまで少子化社会対策基本法に基づく総合的かつ長期的な少子化に対処するための施策の指針として、2004年、少子化社会対策大綱を策定し、現在第4次大綱が令和2年度に閣議決定され、希望出生率1.8の実現に向けた取組を進めております。

国民が結婚、妊娠、出産、子育てに希望を見いだせるとともに、男女が互いに生き方を尊重しつつ、主体的な選択により希望する時期に結婚ができ、かつ希望するタイミングで希望する数の子どもを持てる社会を基本的な目標として掲げ、その推進体制として、少子化社会対策会議を中心に内閣総理大臣のリーダーシップの下で政府一体となって対策に取り組むとしてございます。

この大綱では、内閣府子ども・子育て本部が司令塔となり、関係省庁の連携、推進体制の強化を図るとともに、少子化対策の推進に当たってはまち・ひと・しごと創生など、少子化対策と関連の深い政策分野との連携に留意するとされているところでございます。

以上でございます。

○議長（菱沼和幸君） 6番・櫻井 茂君。

〔6番・櫻井 茂君登壇〕

○6番（櫻井 茂君） ありがとうございます。

次に、そうした国の取組状況を受けて、石岡市のほうでも少子化対策、少子高齢化という時代の流れの中でいろいろな取組をされていると思いますので、石岡市の取組状況についてご答弁いただきたいと思います。

○議長（菱沼和幸君） 保健福祉部長・金井君。

○保健福祉部長（金井 悟君） お答えいたします。少子化対策の一環として、保健福祉部としては第2期子ども・子育て支援プランを策定いたしまして、子どもを安心して産み育てる環境づくりに取り組んでございます。

具体的には、不妊治療費の助成、子育て及び新婚世帯への家賃補助等を行う子育て世帯、新婚世帯新生活補助金事業、満1歳未満児の紙おむつと無料で交換できるクーポン券を配付するすくすく赤ちゃんクーポン事業をはじめとして、妊娠期から子育て世帯全般への多彩な支援事業を関係各課と連携を取りながら実施しております。

○議長（菱沼和幸君） 市長公室長・門脇君。

○市長公室長（門脇 孝君） ご答弁申し上げます。国では人口減少問題に歯止めをかけ、将来にわたり活力ある社会を築くため、まち・ひと・しごと創生法を制定し、国と地方を挙げた地方創生の取組が進められているところでございますが、石岡市では、まち・ひと・しごと創生石岡市総合戦略に位置づけた取組を平成28年度から行ってきており、その方向性を包含する形で令和4年度から新たな総合計画の下、各事業が始動しているところでございます。

保健福祉部長からございました事業以外の主なものとして、結婚に関する事業のあるいばらき出会いサポートセンター負担金、石岡地方結婚相談所負担金などの予算措置がございました。

また、子育てに関する部分につきましては、医療福祉費支給制度の拡充や第3子以降の学校給食無料化、ランドセルの贈呈、訪問型家庭教育、こども図書館本の森の運営などを上げることができます。

以上です。

○議長（菱沼和幸君） 6番・櫻井 茂君。

〔6番・櫻井 茂君登壇〕

○6番（櫻井 茂君） ありがとうございます。6月4日付の茨城新聞に「少子化対策 不発の歴史」と題する特集記事が掲載されております。内容につきましては、政府が30年前から少子化対策を打ち出してきたけれども、これまでに出生数の改善を見ることはできなかったと。これまで既婚者向けの支援策に力を入れてきたけれども、未婚者世代への目配りが必要ではないかというような内容であります。

通告に示したように、出生数に関する統計データで見えてくる事態とは違いました、国の方向性、そして市の取組は、答弁にもありましたけれども、どちらかといえば既婚者に対する支援に偏っていたというような形になっているかと思えます。それが決していけないわけではないんでしょうけれども、ちょっと目線も変える必要があるのかなというのが新聞記事の内容でありました。今さらの感もございますが、この統計データから見た少子化について市はどのように分析されているのかをお尋ねしたいと思えます。

○議長（菱沼和幸君） 市長公室長・門脇君。

○市長公室長（門脇 孝君） ご答弁申し上げます。3つの指標がございます。

初めに、1人の女性が年齢別出生率で一生の間に産むとされている子どもの数に相当します、合計特殊出生率でございます。1985年の時点では、茨城県が1.86に対し、旧石岡市1.85、旧八郷町1.87でございました。

平成の大合併がありました2005年、平成17年の時点でございますが、茨城県が1.39に対し、石岡市1.42と県も市もそれぞれ約0.4ポイント減少している状況でございます。

現在、一番新しい数値といたしましては2017年、平成29年度でございますけれども、この時点では茨城県が1.46に対し石岡市1.44となっております。今回国の合計特殊出生率は令和3年でございます2021年に1.30で、前年比0.03ポイントの減、これは6年連続の減となっております。

以上でございます。

○議長（菱沼和幸君） 6番・櫻井 茂君。

〔6番・櫻井 茂君登壇〕

○6番（櫻井 茂君） 統計データのほうでは合計特殊出生率であるとか、いろいろな統計データがあるわけでありましてね。当然いろいろな政策、計画を立てる際には、そうしたデータも引用しながら新しい政策に臨まれてきたのがこれまでの国であり、石岡市だとは思っております。

冒頭の今回の通告にも書きましたように、過去50年間、結婚されている1組の夫婦、日本人の場合はほとんどの方が結婚という手段を経過してからお子さんが生まれています。海外ですと結婚という手段を取らなくてもお子さんが生まれているという

ケースが非常に多いということで、日本はそういう意味では独自の結婚観があるという流れになるとは思うんですけども、合計特殊出生率という話で減ってきていますよって単純にこれまではどちらかという議論されてきましたけれども、実際にはご夫婦になられた方が産む子どもの数はこの50年間2人前後でほとんど変わっていないんですよ。

何が違うかといえば、第1次ベビーブームがあって、第2次ベビーブームがあって、第3次ベビーブームが来なかったということで、女性の数、男性の数も減っているんでしょうけれども、女性の数が減ったということと、あともう一つは結婚される年齢が上がってきているということですね。結婚の平均年齢が上昇し、かつ結婚されない方が増えてきているという現状があるわけでありまして。ですから、逆に言えば、結婚していただければ2人程度の子どもが生まれるというのが統計データでは読み取れるということで今回通告させていただいたわけでありまして。

先ほど申し上げましたけれども、これまで既婚者向けの支援に重点が注がれているという傾向がございます。一方ではデータは違うところを指し示している部分もあるということで、そうなると市ができることは何なのかということで、大きなことは当然できないわけでありましてけれども、未婚の方々に結婚していただくか、あるいはお付き合いができるようなマッチングの支援、これを市は真剣に考えていく必要があると思います。これについてどのようなお考えを持っているのかをお尋ねしたいと思っております。

○議長（菱沼和幸君） 生活環境部長・鶴井君。

○生活環境部長（鶴井重則君） ご答弁申し上げます。議員ご指摘のとおり、結婚に向けてまずは出会いの機会を設けるということは非常に大切だと考えておるところでございます。現在石岡市におきましては小美玉市と協働で石岡地方結婚相談所を設置いたしまして、相談員による結婚相談業務をはじめ、ふれあいパーティー等を開催するなど、出会いの創出に努めておるところでございます。また、いばらき出会いサポートセンターと連携し、出張相談、登録会の開催や市報での広報活動などを行っております。

以上でございます。

○議長（菱沼和幸君） 市長公室長・門脇君。

○市長公室長（門脇 孝君） ご答弁申し上げます。総合計画におきまして、基本施策として結婚・出産支援の充実として、結婚のきっかけづくりや結婚後の生活支援、安心して妊娠、出産できる環境の整備により若い世代の結婚や出産の希望もかなうことをあるべき将来の姿として目標としてございます。これまでの事務事業が成果として結びついているかという点を丁寧に振り返り、反省点を踏まえ、今後の取組につなげてまいりたいと思っております。

総合計画に基づくマネジメントの下で、まち・ひと・しごと創生石岡市総合戦略や子ども・子育て支援プランをはじめとする関連する諸計画との整合を図り、どういった方へのサービス、事業が不足していたか、あるいは必要な対応はどういったものとなるか整理した形で、少子化対策が市全体の取組としてかみ合っていけるよう調整してまいりたいと思っております。

以上でございます。

○議長（菱沼和幸君） 6番・櫻井 茂君。

〔6番・櫻井 茂君登壇〕

○6番（櫻井 茂君） 両部長からすばらしい答弁をいただいたところで大変申し訳ないんですが、それならばなぜ、もうこれは単刀直入に聞きます。いばらき出会いサポートセンター、先ほど生活環境部長のほうからも答弁をいただきましたけれども、これは石岡市で登録補助金を支援していたんですね。登録される方に対して補助金を出していたと。これが令和2年度をもって廃止されてしまっているんですね。言っていることとやっていることが若干違うので、なぜ廃止したのかお尋ねしたいと思いません。

○議長（菱沼和幸君） 生活環境部長・鶴井君。

○生活環境部長（鶴井重則君） ご答弁申し上げます。当市において市内の未婚者に対する出会いの場づくりを支援するため、議員おっしゃるとおり平成30年度から令和2年度までの3年間、いばらき出会いサポートセンター登録補助金、こちらは1人1回5,000円を実施しておったところでございます。

廃止でございます。こちらにおいてはサンセット期間の満了をもって事業を終了したところでございますが、いばらき出会いサポートセンターは出会いを提供する場として一定の実績がございます。改めて支援の方法につきましてはほかの施策との連携なども含め、関連部局と効果的な支援策の協議を進めてまいりたい、そういうふうにご考えているところでございます。

以上でございます。

○議長（菱沼和幸君） 6番・櫻井 茂君。

〔6番・櫻井 茂君登壇〕

○6番（櫻井 茂君） 3月に発表されました総合計画、基本計画では、政策目標6で結婚・出産支援の充実をうたっておられます。果たして現実はどうなのかということになるわけでありまして。いばらき出会いサポートセンターでは、AI技術を使い登録された方々をマッチングさせることで2021年度は交際件数が倍増したと新聞報道されています。今日持ってきましたけれども、すごいです。実績が。

結婚に至った数は2.5倍、サポートセンターの登録支援をサンセット方式で令和3年度予算から削除したんですね。廃止しています。石岡市で効果が上がっていなかったということもその原因なんだろうとは思いますが、果たして担当部で広報活動や登録を促す活動がしっかりできていたのかなというのは非常に疑問なところがあります。

昨年3月の第1回定例会で同僚議員が婚活について質問しておりまして、このときいばらきサポートセンターを活用して取り組んでいくということを執行部は答弁しているんですね。これは第1回定例会ですから3月です。そうしましたら、その3月末で登録料の支援をやめちゃっているんです。つい先日まで市の公式ホームページでは、このいばらき出会いサポートセンターへのホームページにリンクさえしていませんでした。今は多分指摘したので、ページの充実を図られていると思いますけれど

も、婚活の記事といたしますか、ニュースは2行しかなかったですね。私が見たときは。

今回質問したのは言行不一致というのがどうしても見えてしまいますので、市長が一生懸命笛を吹いているんでしょうけれども、なかなかうまく職員のほうで対応してくれない。笛吹けど踊らずみたいな感じをどうしても受けてしまいます。

1つ紹介したいのは、今ネットニュースで話題になっているものがございます。福井県が新型コロナウイルス対策として地方創生臨時交付金を充てているハッピーマリッジ事業というのがあるらしくて、これが国会で質問されているというニュースが出ていました。

結婚したカップルに5万円相当のカタログギフトをプレゼントしているそうですが、このカタログギフトのメニューの一部にコロナ対策なのかという疑問があるということでの質問です。ちょっとマイナスのイメージになってしまいますけれども、実際には指摘されているような不道德的な支出をされた人はいないということが記事に載っていましたので、今現在何もできていない石岡市でありますので、ぜひ参考にさせていただいて発想の転換を図っていただければというお願いであります。

地方創生臨時交付金の使い方はアイデア次第で、先ほど申し上げましたようにハッピーマリッジ事業というようなことで福井県はやっておられますけれども、そういうことにも活用できるということでもありますので、これをやれということではありませんけれども、やっていただければ、石岡市を經由していばらき出会いサポートセンターに登録をして、結婚された方にそうしたカタログギフトを送るというのも1つの結婚を促す話題性になるのかなという気がしておりますので、ぜひご検討いただければと思いますけれども。

先ほど申し上げましたように、統計データは結婚をしていただくというところへの支援も必要なのではないかということを示しているということで申し上げましたけれども、そうした重要性を市長のほうで再認識していただけたと思いますので、今後の婚活支援、少子化対策をどのように進めていくお考えなのかをお尋ねしたいと思います。

○議長（菱沼和幸君） 市長・谷島君。

〔市長・谷島洋司君登壇〕

○市長（谷島洋司君） お答えいたします。議員ご指摘のとおり、ライフステージとしまして結婚前、結婚、妊娠、出産、子育てと大きく分けた場合に、それぞれのタイミングで適切なサポートがあることで若い世代の結婚、出産が希望する年齢でかなう環境が整っていくことになると思います。今、市町村による結婚支援の取組をはじめ、出会いの機会の提供や結婚に関する相談や支援などにつきましては、改めて関連する施策体系の下で総合的に判断し、出生率の低下に歯止めをかけ、結婚したい人ができるそういった対策を講じてまいりたいと考えております。

例えば先ほど議員からご指摘がありましたいばらき出会いサポートセンターはAIマッチングが導入されまして非常に実績を上げています。石岡市もそういったものに対してしっかり加わっていきながら、そして結婚した人にもインセンティブができるような仕組みをつくっていきたいと考えております。

結婚相談員との連携協力では広域での取組が必要になってくると思います。石岡市としましては若者が集まるような場、例えば成人式の間、あるいは市内の事業所への働きかけなども進めてまいりたいと考えております。

いずれにしましても、今、石岡市としましては担当部署がこども福祉課、コミュニティ推進課、そして政策企画課と分かれているという現状がございます。組織体制を強化しながらしっかりと少子化対策、そして結婚対策に取り組んでまいりたいと思います。

○議長（菱沼和幸君） 6番・櫻井 茂君。

〔6番・櫻井 茂君登壇〕

○6番（櫻井 茂君） 市長のほうから、少子化対策についての職員側の体制にもちょっとお言葉がありましたけれども、できれば一本化になるんですかね。できるならばそうしていただけるのが一番いいと思います。というのは先ほど紹介したように、昨年第1回定例会でいばらきサポートセンターを活用してと答弁したのが市長公室長で、実際に予算を切っちゃったのは誰なのかって話になっちゃいますので、要するに庁内での情報交換が共有化されていないというのはもう見え見えなんですよね。

先ほどの複合文化施設もしかり、今回の少子化対策もそうなんでしょうけれども、ほんのちょっとの気づきで今、石岡市のいばらきサポートセンターの実績は1名か2名しか多分ないので、やることによってパーセンテージが激増すると思いますので、ぜひ取り組んでいただきたいと思います。

以上で質問を終わります。ありがとうございました。